

2022年5月30日

音楽科

鶴田 智子

## ティーチング・ポートフォリオ

### 1. 教育の責任

2021年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養/専門/教職)	科目名	種別 (必修/選択)	開講時期	受講者数
専門	専修実技(声楽) 1	選択	1年 前期	3名
専門	専修実技(声楽) 2	選択	1年 後期	3名
専門	専修実技(声楽) 3	選択	2年 前期	1名
専門	専修実技(声楽) 4	選択	2年 後期	1名
専門	専修実技(声楽) A	選択	専攻科前期	2名
専門	専修実技(声楽) B	選択	専攻科後期	2名
専門	声楽 1	選択	1年 前期	12名
専門	声楽 2	選択	1年 後期	9名
専門	声楽 3	選択	2年 前期	14名
専門	声楽 4	選択	2年 後期	11名
専門	合唱 1	選択	1年 前期	24名
専門	合唱 2	選択	1年 後期	23名
専門	合唱 3	選択	2年 前期	28名
専門	合唱 4	選択	2年 後期	28名
専門	合唱 A	選択	専攻科前期	6名
専門	合唱 B	選択	専攻科後期	6名
専門	室内楽 A	必修	専攻科後期	2名
専門	室内楽 B	選択	専攻科後期	2名
専門	演奏会研究	必修	専攻科後期	2名
専門	教育実習(事前事後指導)	必修	専攻科後期	6名

### 2. 教育の理念

私の教育理念・目標は、音楽の基礎的な知識や理解を深め、実技においては、練習した成果を実践として様々な場面で発表するなかで音楽が持つ力を体感し、将来も向上心を持ち続けながら、音楽で地域文化の発展に関わることができる人材を育成することである。

### 3. 教育の方法

声楽においては、まずは発声の基礎を身に付けさせる事に重きをおいている。そのため、毎回最初は発声練習を行っている。歌い方の癖は個々に違うため、特に個人レッスンである専修実技においては、学生によってアプローチを変えて指導を行っている。課題曲は、各々の声質に合う選曲を行い、より音楽的な表現が可能となるように、曲の解釈、発音、フレーズ等、様々な角度から指導を行っている。また次回のレッスンまでの練習に活かすことができるように、毎回の反省や目標をレッスンノートに書かせている。副科の声楽の授業においては例年、主に2種類の教

材を使用しながら一斉授業を行い、毎回可能な限り個別にワンポイントアドバイスをして、個々の学習意欲を引き出すように心掛けている。しかし昨年度に続き本年度もコロナ感染症対策として、副科の授業においても時間を区切り、個人レッスンを行った。合唱においては例年、定期演奏会に向け、授業のみという限られた練習時間のなかで、いかに音楽科としての質の高い音楽作りを目指すかということに重きを置き、授業を行っている。しかし昨年度に続き本年度もコロナ感染症対策として体育館を使用し、各学生間の距離を十分にとらせ、受講者全員で主に無伴奏の選曲による授業を行った。演奏会研究においては、各学生の研究テーマに関してのアドバイスを行い、学生が自身で研究テーマについての内容を徐々に深めながら仕上げていくという作業を行わせた。

#### 4. 教育の成果

専修実技においては、コロナ感染症対策をはかりながらのレッスンではあったが、各学生のレッスンに臨む姿勢や課題への取り組みには意欲がみられ、個々の力を伸ばすことが出来ていた。副科実技においても同様で、授業評価アンケートにおいては項目に偏りがなく比較的高い評価を得ていた。合唱においては、本年度も定期演奏会での発表は出来なかったが、その代わりとして、全員マスク着用で30分程度のミニコンサートを体育館で開催した。授業アンケートから、コロナ禍のなかにあっても発表の機会を設けたことは、学生にとっては非常に有意義なものであったということが感じられた。演奏会研究においては、研究テーマについて深めることができていた。

#### 5. 今後の目標

実技に関しては、実際に歌いながら指導する必要がある為、自身の演奏技術を保つ必要がある。コロナ感染症対策を図りながらも、より質の高い指導を目指し、今後も自己研鑽に努めていきたいと考えている。

#### 6. 根拠資料

- シラバス
- 授業資料
- 授業評価アンケート結果
- 授業改善計画書